

鹿児島大学歯学部創立40周年を祝し、創設に尽力された方々に感謝を

鹿児島大学名誉教授 杉原 一 正



鹿児島大学歯学部創立40周年誠におめでとうございます。私は、昭和48年（1973年）3月に大学を卒業とともに鹿児島大学医学部歯科口腔外科学講座に大学院生として入局しました。当時の医学部と附属病院は現在、黎明館と鹿児島医療センターのある城山町にありました。昭和49年7月～8月に医学部と附属病院は城山町から現在の桜ヶ丘（亀ヶ原地区）に移転しました。昭和53年4月には待望の歯学部が開学し、私の所属も歯科口腔外科学講座から歯学部口腔外科学第一講座となりました。昭和55年4月までに歯学部研究棟、学生講義実習棟、レンガ色の歯学部附属病院が完成し、新しい研究棟4階と附属病院3階および4階の病室、手術室で口腔外科の研究と診療を開始しました。数年後から歯学部学生への口腔外科学の講義や臨床実習も始まり、立派な歯科医師を育てるべく学生教育に毎日、一生懸命がんばったことが昨日のように思い出されます。今や鹿児島大学歯学部で育った卒業生が全国で活躍されておられることが私にとっての最大の喜びであります。

歯学部創設40周年を迎えるにあたり、忘れてはならないのが歯学部創設までの経緯とそこにに関わり尽力された方々のことだと思います。「鹿児島大学30周年史」によりますと昭和39年（1964年）11月の医学部教授会において医学部及び附属病院の亀ヶ原地区への移転が決議され、昭和42年8月文部省に提出された建築構想の中に歯学部と薬学部の新設の構想が記載されました。昭和44年5月20日の医学部教授会（佐藤八郎医学部長）と同年6月12日の大学評議会において昭和45年度の概算要求に歯学部設置を要求することが決定され、昭和47年9月には、鹿児島県、宮崎県、沖縄県とこの三県の歯科医師会を中心に「鹿児島大学歯学部設置期成同盟会」（会長：金丸鹿児島県知事）が結成され、会の運動方針として「南九州地区（宮崎・沖縄を含む）の深刻な歯科医師不足の解消をはかり、地区住民の健

康保持及び増進のため鹿児島大学に歯学部が早急に設置されるよう適時適切な運動を協力を展開する」と定められました。その後、県知事、副知事、県衛生部長や鹿児島県歯科医師会長（野添武二先生のちに浜田謹之助先生）等も上京の機会あるごとに三県選出国会議員や文部省など関係当局に継続的に陳情と要請、協力を繰り返されました。かくして、関係者一同の熱意がみのって、昭和49年度予算に歯学部創設調査費（5,138千円）が認められ、昭和50年10月に創設準備のための口腔基礎医学講座が設置され、11月に大阪大学より笠原泰夫教授が就任されました。昭和51年度概算で鹿児島大学は歯学部創設準備校となり、5月に正式に歯学部創設準備室（室長：岡元健一郎医学部長）と同準備委員会の設置が認められ、9月には広島大学から中澤省三教授が専任の準備室長として就任されました。

鹿児島大学30年史は、「こうして関係者一同の約10年近い熱意と努力が見事に結実して歯学部開設が現実のものとなってきたのであるが、就中、鹿児島県・鹿児島県歯科医師会・床次徳二代議士を初めとする3県選出国会議員諸氏等関係者の強い支援と協力が、設置促進に大きな成果をもたらしたことは特記すべきである。また、歴代学長（中村末男・蟹江松雄）、歴代医学部長（特に佐藤八郎・内山八郎・川路清高・大森浅吉）、歴代医学部附属病院長（特に金久卓也・久保隆一・森 一郎）や歴代事務局長を初めとする鹿児島大学事務局関係者一同の尽力もまた忘れてはならない事実である。」と述べています。

昭和52年10月1日に晴れて鹿児島大学歯学部は開学部となり歯科理工学講座と口腔外科学講座の2講座が設置され、昭和53年4月12日歯学部1期生（入学定員80名）の入学式が行われました。その後、経年的に講座の新設が行われ、昭和57年に18講座体制が完成し、昭和59年3月には第1回卒業式が行われ55名の卒業生を送り出しました。同年4月には大学院歯学研究科が設置され、さらに充実が図られましたが、平成元年には入学定員が60名に改訂され平成9年4月には教養部改組に伴い歯科基礎科学講座が設置されました。平成

15年4月には大学院重点化に伴い、大学院医学研究科と歯学研究科が統合され大学院医歯学総合研究科となり、歯学部教員の所属も全員大学院医歯学総合研究科の所属となりました。同年から歯学部学生定員も55名に改訂されるとともに歯科麻酔学（歯科麻酔全身管理学）講座が設置されました。さらに、平成22年4月には歯科医学教育実践学講座（歯科総合診療部）が設置され現在に至っています。

歯科医師不足の解消のために創設された鹿児島大学歯学部でしたが、現在は歯科医師過剰の時代を迎え平成23年度から歯学部入学定員も53名に改訂され現在に至っています。このように鹿児島大学歯学部にとって厳しい時代を迎えています。これからも南九州唯一の歯学部としての鹿児島大学歯学部の存在価値を高めるべく、教職員一丸となって研究、教育、臨床にがんばってほしいと思います。在校生や卒業生の皆様も鹿児島大学歯学部生、卒業生としての自覚と誇りを持って世界中、日本中で活躍する歯科医師となってほしいと思います。鹿児島大学歯学部の更なる発展を心より祈念しております。